

春の風	春風と思へぬ高さ風上る	2018. 1.22	春燈	団樂の部屋の乱雑春燈	2020. 2.27	
	<u>春風と思へぬほどに風上る</u>			団樂の居間の乱雑春燈		
	春風のかくまで高く風上る	2018. 1.24		団樂の部屋の雑然春燈		2020. 3. 5
	<u>春風も驚く風の高さかな</u>	2018. 1.25		雑然と団樂の部屋春燈		
春風や高からねども風	2019.12.18	雑然と部屋の団樂春燈				
春の雪	儷札の透かしの中の春の雪	2020. 2.10		こもごもに居間の団樂春燈		
	戸を開けて珈琲匂ふ春の雪	2020. 2.10		<u>団樂の部屋の駁雑春燈</u>		
	珈琲の香の立ち上る春の雪			こもごもに団樂の居間春燈		
	<u>立ち上る珈琲の香や春の雪</u>			<u>泣く吾子にまた春燈を点しては</u>	2020. 2.27	
山笑ふ	翼あるものは羽ばたく山笑ふ	2020. 1.25		春燈の名前が誘ふ銀座かな	2020. 2.27	
	翼あるものは遠くへ山笑ふ			春燈の名前が誘ふ西銀座		
	<u>水は奏で鳥は囀り山笑ふ</u>	2020. 1.26		春燈の名前が誘ふ裏通り		
	長生きの齡億年山笑ふ	2020. 1.26		春燈にママの名前の書かれある		
	<u>湖は水の安らぎ山笑ふ</u>	2020. 1.26		春燈に女の名前の書かれある		
	<u>山笑ふ地球は丸く回転す</u>	2020. 1.26		ひらがなで女の名前春燈		
雪解	雪山を海に伝へよ雪解川	2019.12.24		平仮名で女の名前春燈		
	雪のこと海に伝へよ雪解川			平仮名でママの名前や春燈		
	<u>山のこと海に伝へよ雪解川</u>			ひら仮名でママの名前や春燈		
				店名はママの名前や春燈		
				春燈やママの名前が店名で		
				店の名はママの名前や春燈		
				店の名はママの本名春燈		
				ママの名の店の名照らす春燈		
				ドアにあるママの名前や春燈		
				店の名はママの名前よ春燈		
		<u>店先にママの名前の春燈</u>				
		春燈の中のネオンやネオン街	2020. 2.28			
		<u>春燈の赤青黄色ネオン街</u>	2020. 3. 5			
春眠	春眠 1 春眠 2 春眠 3 と川の字に			春眠 1 春眠 2 春眠 3 と川	2020. 1.25	
	春眠 1 春眠 2 春眠 3 と我家なり			春眠 1 春眠 2 春眠 3 と我家なり		
	<u>春眠 1 春眠 2 春眠 3 と平和なり</u>			<u>春眠 1 春眠 2 春眠 3 と平和なり</u>		
	春眠 1 春眠 2 春眠 3 と仲の良き			春眠 1 春眠 2 春眠 3 と仲の良き		
	春眠の酒味噌醤油人もまた	2020. 1.25		春眠の酒味噌醤油人もまた		
	春眠の酒味噌醤油そして人			春眠の酒味噌醤油そして人		
	<u>春眠の酒味噌醤油旨くなれ</u>			<u>春眠の酒味噌醤油旨くなれ</u>		

蝶	ひらひらとお馬の前の蝶々かな	2020. 2.15	夏	子も夏も幼き時は可愛らし	2020. 4.20
	ゆらゆらとスカートゆるる蝶の昼	2020. 2.20		塩加減火加減春から夏へかな	2020. 4.20
	ペランダに洗濯機あり蝶の昼			シャンプーは夏の季語にはあらざれど	2020. 4.20
	洗濯物に新しき色蝶の昼			シャンプーは夏の季語にはあらねども	
	スカートの色新しき蝶の昼			シャンプーは夏なる季語にあらねども	2020. 5.21
	スカートのマネキン代はる蝶の昼			シャンプーは夏専用にあらねども	
	スカートのマネキン代へる蝶の昼		初夏	初夏の洗濯ばさみ買ひ足して	2020. 4.20
	スカートのマネキン替へる蝶の昼			初夏の洗濯鉄花鉄	
	スカートのマネキン換へる蝶の昼			初夏の洗濯ばさみ花ばさみ	
	マネキンのスカート換へる蝶の昼		立夏	シャンプーの泡立つ夏となりにけり	2020. 4.20
	スカートは歩けば揺るる蝶の昼			シャンプーの泡立つ夏の来りけり	
	あゆみゆくスカートゆるる蝶の昼			シャンプーを泡立てて夏来りけり	
	スカートは筒状の布蝶の昼		夏風	春風を夏風が追ひ越して行く	2020. 4.20
	筒状のタイトスカート蝶の昼		夏の風	夏風が春風を追ひ越して行く	2020. 4.20
	スカートにスカートの香や蝶の昼		髪洗ふ	新製品よく出ることよ髪洗ふ	2020. 5. 9
ヒヤシ	教室に朝日の差してヒヤシンス	2020. 2.18		新製品またも出でたり髪洗ふ	2020. 5.20
ンス	教室に朝日さしくるヒヤシンス			美容院の仕舞ひの客の髪洗ふ	2020. 5. 9
	教室の日当りの良きヒヤシンス			美容院の最後の客の髪洗ふ	
	日当りの良き教室のヒヤシンス			美容院の夜の賑はひ髪洗ふ	2020. 5.11
	教室に差してくる日やヒヤシンス			美容師が最後の客の髪洗ふ	2020. 5.20
	教壇に少し芽吹きしヒヤシンス	2020. 2.18		髪洗ふ最後の客や美容院	
	教壇に芽吹き初めたるヒヤシンス			髪洗ふ最後の客や美容室	
	教壇に芽吹き始めのヒヤシンス			髪洗ふ最後の客や月に消ゆ	
	教壇にうつかり倒すヒヤシンス			月へ帰る最後の客の髪洗ふ	
	ヒヤシンス恥しき根を見られをる	2020. 2.18		美容師の十指任せの洗ひ髪	2020. 5.20
	ヒヤシンス恥しき根を絡ませて			美容師の十指まかせの洗ひ髪	
	恥しき根を絡ませてヒヤシンス			美容師の十指に任ず洗ひ髪	
	ヒヤシンス恥しき根のあからさま			髪洗はねばと思ひつ疲れ寝る	2020. 5.20
	日曜の教室静かヒヤシンス	2020. 2.18		髪洗ふ明日の風を思ひつつ	
	明け方の無人教室ヒヤシンス			洗ひ髪猫に見られてしまひけり	2020. 5.20
	教室の土曜日曜ヒヤシンス	2020. 2.20	さくら	素麺に紅一点のさくらんぼ	2020. 4.26
	なまぬるき水栽培のヒヤシンス	2020. 2.18	水着	木の椅子に水着の跡の残りけり	2020. 5.10
	なまぬるき水耕栽培ヒヤシンス			脱ぎ捨てて忽ち水着うとましき	2020. 5.11
	なまぬるき水に根を張るヒヤシンス			脱ぎ捨ててもはや水着の疎ましき	2020. 5.20
	なまぬるき水に根を張りヒヤシンス			脱ぎ捨てて既に水着の疎ましき	
	ぬるぬると水に根を張りヒヤシンス	2020. 2.20		緋の水着水のなかより燃えあがる	2020. 5.20
				緋の水着水の中より燃え上る	

蛇	木に上る蛇に感心してをりぬ	2020. 4. 9	蚕豆	蚕豆の寢室を剥き荒したる	2020. 4. 3
	ちろちろと弱火なれども蛇の舌	2020. 4. 9		蚕豆の寢室を剥き驚かす	
	ちろちろと強火にあらず蛇の舌			蚕豆の白き寢室暴き立て	
	赤き蛇ちろちろと出づる蛇の口			蚕豆の寢屋を暴くも悲しけれ	
	赤き蛇ちろちろとさせて蛇の口			蚕豆の寢屋を暴いて放り出す	
	小さく赤き蛇の如きを蛇の口			蚕豆の寢屋に踏み込むやうなこと	
	赤き蛇吐くやうに蛇口を開け			蚕豆の眠れる寢屋を暴きけり	
	蛇の口ちらちら赤い蛇を吐く	2020. 4.20		柔らかな蚕豆の寢屋暴きけり	
	ちろちろと弱火を吐ける蛇の舌			純白の蚕豆の寢屋暴きけり	
	ちらちらと見えて赤きは蛇の舌			蚕豆の柔らかな寢屋暴きけり	
口開けて蛇に虫歯もなかるべし	2020. 4. 9	蚕豆の寢屋に押し入り追ひ出しぬ			
長虫といふ名は体を現はせり	2020. 4.20	蚕豆の柔らかな寢屋暴き立て	2020. 4. 4		
長虫といふ名は体を表はせり		純白の蚕豆の寢屋暴き出す			
松落葉	文字にして落葉松落葉ややこしき	2020. 3.17	蚕豆の寢屋に押し入る無礼者		
	寺へ行く道竹落葉松落葉	2020. 3.17	蚕豆の寢屋に押し入る無礼かな	2020. 4. 5	
	寺のここ竹落葉ここ松落葉		蚕豆を抓むポーカークフェイスかな	2020. 4. 4	
			蚕豆も青葉若葉の緑色	2020. 4. 4	
			蚕豆も青葉若葉も緑色		
			蚕豆も青葉若葉の色にかな	2020. 4. 5	
			玉になることを諦め蚕豆は	2020. 4. 4	
			蚕豆は玉になること諦めて		
			蚕豆は玉になること忘れたる		
			蚕豆は玉になることなささうな	2020. 4. 5	
		玉になることを忘れて蚕豆は			
		玉になることとは別に蚕豆は			
		蚕豆は玉になる夢忘れしや			
		蚕豆の形を何に喩ふべき	2020. 4. 5		
		蚕豆の形を何に例ふべき			
		蚕豆の形を何にとふべき			
竹落葉	竹炭に竹の節あり竹落葉		竹落葉	2020. 3.17	
さくら	歯に止めて柄を引つ張るやさくらんぼ		さくら	2020. 5. 5	
んぼ	歯に止めて柄を引き抜くやさくらんぼ		んぼ		
	さくらんぼ年の離れし妹よ		さくら	2020. 5. 5	
	姉妹のやうに仲良しさくらんぼ		んぼ		

月見草	月見草の深夜の道をシンデレラ	2020. 6. 2	夜長	賸札の透かしを作る夜長かな	2020. 2. 7
	月見草の真夜中の道シンデレラ		十月	十月に続く十一月の空	2020. 8. 17
	月見草踏みつつ帰るシンデレラ			十月の影の長きを踏みながら	2020. 8. 20
	月見草踏んでしまひしシンデレラ		運動会	ピストルを磨く運動会前夜	2020. 8. 17
	月見草の道を帰りぬシンデレラ			ピストルの手入れ運動会前夜	
	月見草ガラスの靴で踏まれしや	2020.11.27		あかあかと運動会の日差かな	2020. 8. 20
	終点に花を添へたる月見草	2020. 6. 2		きらきらと運動会の日差かな	
	鉄道のレール剥がされ月見草		七夕	ホテルから夜汽車の見ゆる星祭	2020. 6. 16
	月見草最終便の灯の赤し			七夕や菓子も商ふ文具店	2020. 6. 17
	最終電車着いて灯を消す月見草	2020. 6. 4		七夕や文房具屋で菓子を買ふ	2020. 6. 20
	終列車着いて灯を消す月見草			七夕や学校前の文具店	
	影のやうに舟の出でゆく月見草	2020. 6. 2		織姫の永遠に老いゆく星祭	2020. 6. 17
	影のやうに舟の出でゆく月見草			七夕や織姫永遠に老いゆくも	
	月星と一夜の契り月見草	2020. 6. 2		七夕や永遠に老いゆく織姫も	2020. 6. 20
	うす紅の一夜限りの月見草			七夕や永久に老いゆく星ふたつ	
	月見草うす紅の一夜限り			七夕竹に願ひ思ひのきらびやか	2020. 6. 17
	月見草うすくれなゐの一夜限り	2020. 6. 3		七夕竹に願ひ思ひの綺羅びやか	
	月見草うすくれなゐの今宵限り			色紙で作る鎖や星祭	2020. 6. 17
	うす紅の今宵限りの月見草			色紙で作りし鎖星祭	
	うす紅の今宵かぎりの月見草			色紙で鎖を作る星祭	2020. 6. 18
	月星に一夜の契り月見草		新酒	さびしさの月をあげたる新酒かな	2020. 9. 2
	照らされて今宵限りの月見草	2020. 6. 4		端座して新酒待たるる新豆腐	2020. 9. 4
	月見草月の光に照らされて			端座して新酒を待てる新豆腐	
	月見草こよひ限りの紅薄し		鰻	穴釣の穴より大き鰻かな	2020. 7. 6
	月見草こよひ限りの紅を引き			小兵なれども揚げ鰻焼き鰻	2020. 7. 6
	月星に一夜恋せし月見草				
	月に咲く一夜の恋の月見草				
	月ほどに薄き花びら月見草	2020. 6. 2			
	昼が来て夜が来て地球月見草	2020. 6. 4			
	地球丸く昼夜交代月見草				
	地球いま夜の半球月見草				

蝸螂	<u>蝸螂の怒りに燃ゆる緑色</u>	2020. 7. 22	蝸	七夕の市内循環バスに乗る	2020. 6. 17
	生きてゐる緑の斧やいぼむしり	2020. 7. 22		折り返し駅へ行くバス星祭	
	生きてゐる二丁の斧やいぼむしり			駅へ行く最終のバス星祭	2020. 6. 20
	構へたる二丁の斧やいぼむしり			駅へ戻る最終のバス星祭	
	蝸螂に二丁の武器や空を切る	2020. 8. 5		駅へ行く最終バスや星祭	2020. 6. 26
	蝸螂に二丁の武器の自在かな			<u>蝸やバス折り返す寺の前</u>	2020. 7. 5
	蝸螂に二丁の武器や構へたる			<u>蝸に一番星はまだ見えず</u>	2020. 7. 3
	西部なら二丁拳銃いぼむしり			深く高く夕かなかなのホテルかな	2020. 7. 3
	<u>西部劇なら二丁拳銃いぼむしり</u>			鬱蒼と夕かなかなのホテルかな	
	蝸螂やこの世に生を享けたれば	2020. 8. 5		鬱蒼とかなかなの鳴くホテルかな	
	蝸螂や食はれて生を全うす			森林にかなかなの鳴くホテルかな	
	<u>蝸螂の食はれて生を全うす</u>			森の奥にかなかなの鳴くホテルかな	
	<u>草にゐて草より青しいぼむしり</u>	2020. 8. 5		森深くかなかなの鳴くホテルかな	
	蜘蛛にあり蝸螂になき女郎かな	2020. 8. 5		森深くかなかなかなのホテルかな	
	斧舐めて月に挿頭しぬいぼむしり	2020. 8. 5		分け入りてここ蝸の鳴くホテル	
	<u>斧舐めて月に挿頭しぬ蝸螂(いぼむしり)</u>			分け入りて来よ蝸の鳴くホテル	
				分け入りてかなかなの鳴くホテルかな	
				分け入りて蝸の鳴くホテルかな	2020. 7. 5
				蝸やもうワンテイク撮り直す	2020. 7. 5
				<u>蝸にもうワンテイク撮り直す</u>	
				蝸や湯治も明日を限りかな	2020. 7. 5
				蝸や湯治も今日を限りなり	
				蝸や湯治の日数あと幾日	
				蝸や湯治の日数かぞへては	
				蝸や湯治の残り日数など	
				蝸の湯治も明日を限りかな	
				<u>蝸の湯治も今日を限りかな</u>	
				<u>蝸に都恋しき湯治かな</u>	
				<u>蝸に今日を限りの湯治かな</u>	
				蝸も夕日も遠くなるばかり	2020. 7. 5
				<u>蝸も夕日も遠くやがて消ゆ</u>	

葡萄	種と皮と骨の残りし葡萄かな	2020. 7. 7	葡萄	一粒の葡萄を垂るる露しづく	2020. 7.18
	骨と皮と種の残りし葡萄かな			一粒の葡萄をたるる露しづく	
	角のごとく骨のごとくに葡萄の柄	2020. 7.20		ひと粒の葡萄をたるる露しづく	
	葡萄棚の下で昼寝をしてみたし	2020. 7. 7		ひとつぶの葡萄をたるる露しづく	
	葡萄棚の下で昼寝でもするか	2020. 7.18		<u>冷蔵庫を出でし葡萄の露まみれ</u>	
	昼寝でもするかや葡萄棚の下			葡萄房より一粒の露雫	2020. 7.19
	昼寝でもどうぢや葡萄棚の下			露しづく葡萄の房を伝ひけり	2020. 7.20
	昼寝なら、、、葡萄棚の下			手に取れば葡萄の房の雫かな	
	葡萄棚の下を借りたる昼寝かな			手に取りて葡萄の房の雫かな	
	葡萄棚の下に主の昼寝かな			ひとしづく葡萄の房を伝ひけり	
	葡萄棚の下に昼寝の葡萄守			ひとしづく葡萄の房をつたひけり	
	葡萄棚の下に昼寝の翁かな			ひとしづく葡萄の房を伝ひ落つ	
	葡萄棚の下に昼寝の老一人			手に持つて葡萄の房の雫かな	
	香にまみれ昼寝は葡萄棚の下			<u>葡萄より露一粒の伝ひ落つ</u>	
	その下に昼寝の椅子が葡萄棚			伝ひ落つ葡萄の露の一雫	
	友だちと昼寝は葡萄棚の下			落ち行くは葡萄の露の一雫	
	友だちと二人の昼寝葡萄棚			<u>夜空より葡萄の露の一雫</u>	
	友だちと葡萄の園に昼寝して			紫の雨に煙れる葡萄園	2020. 7.18
	友だちと葡萄の園に昼寝かな			<u>板のごと雨に叩かれ葡萄棚</u>	2020. 9.19
	友だちと葡萄畑に昼寝して		水引の	<u>水引の花の疎らに花ざかり</u>	2020. 6.17
	友だちと葡萄畑に昼寝かな		花	水引の枝の勢ひを活けにけり	2020. 6.19
	昼寝ならいつかは葡萄棚の下			水引の枝の勢ひを壺に刺す	2020. 6.20
	昼寝ならもとより葡萄棚の下			<u>水引の枝の勢ひを壺に挿す</u>	
	昼寝でもいかがと葡萄棚の下			水引の小さき紅長き枝	2020. 6.20
	昼寝でもどうぢやな葡萄棚の下			<u>水引のくれなる小さし枝長し</u>	
	食べごろの葡萄畑に昼寝して	2020. 9.17			
	<u>恋人と葡萄の園に昼寝して</u>	2020. 9.22			
	紫も緑もありて葡萄なり	2020. 7. 8			
	<u>紫も緑も黒も葡萄なり</u>	2020. 7.18			

雪女	スキーしてをるはゆきじよか雪女	2019.11.22	追儼	白面の鬼恐ろしや追儼豆	2020. 1. 8
	スキーしてをるは雪女と言ひにけり			白面の鬼恐ろしや追儼の夜	
	雪山に派手な雪女や滑りゆく			真つ白な鬼面恐ろし追儼の夜	2020. 1.10
	ゲレンデや滑り来るのは雪女じゃないか	2019.11.23		真つ白な追儼の面ぞ恐ろしき	
	ゲレンデのあれに見ゆるは雪女じゃないか			鬼やらひ氷の水も清らかに	2020. 1. 8
	ゲレンデのあれに見ゆるは雪女ぢやないか	2019.11.25		鬼やらひ氷は解けて清らかに	
	雪女真つ赤な足でありにけり	2019.11.22		鬼やらひ解けて氷は清らかに	
	ちらと見ゆ真つ赤な足の雪女	2019.11.23		巫女溜り追儼の夜も更けにけり	2020. 1.10
	干柿を小判で買うて雪女	2019.11.25		湖へ撒く追儼の豆のぼちやぼちやと	2020. 1.10
	進む乳が氷りぬ雪女	2019.11.25		湖へ追儼の豆のぼちやぼちやと	
嬰にやる乳が氷りぬ雪女		篝火の一つ怪しき追儼かな	2020. 1.10		
嬰にやる乳が冷たし雪女		茶の花	茶の花をむんずと掴むやうなこと	2020.10. 3	
雪女老いて氷柱に纏はれて	2019.11.25	茶の花をむんずと掴むやうな夢			
雪女老いて氷柱に纏はるる		茶の花の月の出ほどに黄が見えて	2020.10. 5		
雪女老いて氷柱に纏はられ		茶の花や月の出ほどに黄が覗く			
雪女老いて氷柱を身にまとふ		茶の花や月の出ほどの黄が覗く			
手袋	手袋の轆かれてもなほ五指ひろげ	2020. 9.15		恋心とは茶の花の荅ほど	2020.10. 5
	手袋の轆かれし指の五本かな			茶の花の蕾のやうな恋心	
	轆かれてもなほ手袋の五指ひろげ	2020. 9.17			
	轆かれてもなほ手袋の五本の指				
	轆かれてたる片手袋が五指ひろげ				
	轆かれてたる片手袋の五本指	2020. 9.18			
	轆かれてたる片手袋の指五本				
	轆かれてたる手袋パーの形して				
	轆かれてたる手袋パーを出したまま				
	手袋で叩けばいつもと違ふ音	2020. 9.17			
監督の手袋作業の人の軍手					
監督の手袋作業の人軍手					
監督の革手袋の指図かな					
親方の革手袋の指図かな					
親方の革手袋が真赤なり					
拾はれてみても手袋心細	2020. 9.17				
甲斐なしや片手袋を拾うても					
手袋を罪なきものが踏んでゆく	2020. 9.20				
インバネス	軍人とすれ違ひたるインバネス	2020. 9. 9			
	インバネス軍人さんとすれ違ふ				
	インバネス兵隊さんとすれ違ふ				

風	<u>春風に高からねども風</u>	2019.12.18
	山々の中の村々風あがれ	2019.12.17
	山々の村々に風々あがれ	
	風揚がれ風々揚がれ揚がれかし	2019.12.18
	風あがれ風々あがれあがれかし	
	風あがれ風々あがれ上れかし	
	山奥に風あげの子や風あがれ	
	山奥に風あげの子ら風あがれ	
	ふく風に風々あがれあがれかし	
	山々の村々に風あげの子ら	
風の子の風々あがれあがれかし		
<u>風の子に風々あがれあがれかし</u>	2019.12.19	
<u>風神や数多の風を遊ばせて</u>	2019.12.18	
雑煮	つきたてのやうにやはらか雑煮餅	2019.12. 3
	宿に食ふ雪国ぶりの雑煮かな	2019.12. 3
	これやこの雪国ぶりの雑煮かな	
	湯の宿に雪国ぶりの雑煮かな	
	湯の宿に雪国ぶりの雑煮食ふ	
	<u>湯の宿に雪国ぶりの雑煮食ふ</u>	
	雑煮とはなれず黄粉をまぶされて	2019.12. 9
雑煮とはなれず黄粉に塗れたる		
雑煮とはなれず黄粉にまみれたる		
<u>雑煮にはなれず黄粉にまみれたる</u>		
食ひ終へて湯気に残れる雑煮かな	2019.12. 9	
食ひ終へて湯気に残れる雑煮椀		
食ひ終へてほのと湯気ある雑煮椀		
春着	雪の上に倒れて赤し春着の子	2019.11.22
	<u>転ぶなと言へば転びぬ春着の子</u>	
	雪の上に見事に転ぶ春着の子	
	<u>春着の子見事に転ぶ雪の上</u>	2019.11.23
	上気してロビーに語り合ふ春着	2019.11.23
	上気してロビーの春着賑やかに	
	ロビーには春着賑やか上気して	2019.11.24
<u>上気してロビーに語る春着かな</u>		
上気してロビー彩る春着かな		
着膨れるまでに着せたる春着かな	2019.11.24	
<u>着膨れるままに着せたる春着かな</u>		